

ごみ焼却施設建設基本計画にかかる中間答申 住民説明会議事概要（第1回）

日 時：令和8年4月9日（木）午後6時30分～7時27分
場 所：伊達市 保原中央交流館 大会議室

【開 会】進行：総務課長 午後6時30分開会

参 加 者 14人
主 催 者 側
組 合 組合管理者 伊達市長
事務局長外9人
受 託 業 者 (株)東和テクノロジー 環境エンジニアリング事業部 2人

【管理者あいさつ】組合管理者 伊達市長 須田 博行

【配布資料確認】

【説 明】業務課長

- (1) ごみ焼却施設建設基本計画にかかる中間答申
ごみ焼却施設建設基本計画にかかる中間答申書により、基本計画検討概要、
検討方法、検討結果の報告を行なった。

【質 疑 応 答】

Q：行政としては、なぜあそこの地域ですという判断をしたのか

A：構成市町において、まずどこの地域にするのかという協議を行いました。その中で埋立処分場の部分がまず問題となり、埋立処分場を新たに設置することについて構成市町と協議を行いました。接続するインフラ、道路、電気、水道、排水といったところの問題があり、適切な場所がどうしても見つかりませんでした。現在の埋立処分場は、容量が逼迫している状況であり、今後どうするのかといった検討を行った結果、今現在の処分場の埋設物を溶融して延命化を図っていくこととしたところです。

それに伴い、焼却場をどうするのかといったところですが、燃やすことにより焼却灰等が発生する。そして今回、埋立処分場の再生をすれば、それだけ処分場から出る埋設物も発生する。そういったところで別な場所に建ててしまった場合、埋設物の運搬時に周辺に迷惑をかけてしまう恐れもあり、リスクを軽減したい、あとは、同じ施設内に配置されることの効率的な要素も加味して、今回の場所に建設をしていきたいとなったものです。

Q：何故シャフト式ガス化溶融炉なのか。また、高温によって重金属とかそういうものも問題となるが、燃焼の排ガスをどのように処理するのか。

A：なぜシャフト炉なのかといったところは、検討概要の処理方式についてのところで説明しましたが、埋立地の再生事業を検討の方法としています。

現在のストーカー炉は、年間概ね 4,000 t ほどの灰が発生し、これを埋立処分場に埋立をしています。新施設ではそのうちの 7 割、概ね 3,000 t は埋立をせず、資源としてリサイクルしたいと考えています。その中で、重金属の心配があると思われ。重金属はごみ質中に含まれるものがあり、これを完全に取除かない限りはどうしても含まれてしまいます。シャフト式熔融炉は 1,800℃ くらいの還元方式で、酸素を入れない燃やし方であり、どちらかという燃すよりも溶かす焼却炉であります。揮発することにより重金属がスラグの中に含まれず、飛灰の方に集約されます。集約された鉛、重金属類は、キレートといわれる固定剤を使ったり、セメント固化等いろんな安定方式を使い、量を小さくして埋立をするような考えがあります。その中で、コークスによる二酸化炭素、地球温暖化ガスということがありますが、シャフト炉の中でも低炭素型のコークスや、コークスの量を 3 分の 1 に抑えられる施設もあります。また、現在実施している事業者アンケートの中で、民間の技術のその内容を見ていければというふうに思っています。

Q : 施設を建設するのであれば、地元ちゃんとした説明、地元理解を得られるような説明を常にしていきたい。

A : 地元への説明が不足していたということの反省から、こうして中間報告から皆様に説明させていただくということなので、ご理解をいただきたい。環境影響評価の時にもご説明をしており、その段階、段階で説明しています。今回、中間報告、そして最終報告までまた説明させていただきますので、安全性についてはご理解願いたい。

Q : 年末等ごみの搬入者が道路に並ぶので片側 1 車線の交互通行になる場合がある。ガードマンを配置しているが大変危ない状況なので、新しい施設整備に際して交通整理について検討してほしい。

A : ご指摘のとおり待機スペースを設けているが足りていない状況です。今後、新しい施設の動線計画では入口を変えて、中に待機スペースを設けるよう検討しています。そういうのを踏まえて、交通、車の事故が無いように動線計画を検討していきたいと考えております。

Q : 今の焼却炉と新焼却炉の公害問題に関する指数について、新施設の焼却力を使えば、こういう風によくなりますといった指数があれば教えてほしい。

A : まず、一つ目の基準値については、現在、検討委員会の中で継続審議中ではありますが、既設炉の基準値よりも、新施設の基準値は厳しい設定になっています。設定値について、排ガス、騒音、振動、排水といった形で最終答申で示させていただきたい。項目中のばいじんを例に取って説明すると、既設炉からばいじんは 1 m³中、0.15g 以下と設定されていますが、新施設による最新の国の基準では 0.08g となり、厳しくしています。ダイオキシンについては、既設炉では 5 ナノグラムというような基準。新施設では 1 ナノグラム、5 分の 1 になります。このように確実に環境基準は厳しくなります。

Q : 元素組織について、測定方法を含め、みんなに分かるように説明してほしい。

A : 元素組織というものは、ごみを焼却するごみ質の中に、炭素や水素等の成分がこのくらい含まれているのかを整理して、今後、施設を整備する上で、今回の計画ご

み質の基準ごみだった時に、どのくらいの施設を整備するための設計条件としてプラントメーカーに示すものです。

Q：前の質問に関連して、数字は全て1日当たりなのか。これが10年先になったらどのくらい蓄積されるのか、そういった統計を取っているのか。

A：昨年の6月から今年の6月にかけて新施設建設に係る環境影響評価調査の現地調査を行っています。以前に調査に係る方法書の説明会を行っており、今度、年末に準備書という調査結果の説明を予定しています。

調査結果について中間報告を受けていますが、現時点で何かしら国の基準に抵触しているというような報告を受けてはおりません。

Q：シャフト式ガス化溶融炉について、燃焼の燃料について重油以外の燃料が必要なのか。コストが掛かると思われる。

A：シャフト式ガス化溶融炉は、1,800℃の高温で溶融するため、エネルギーを要します。そのためコークスと言われる燃料を使って炉の温度上げるのですが、重油同様コストは掛かります。今後の検討として、その費用を抑えられるような代替えコークス、バイオコークスというものが市場に出ていますので、今後、事業者アンケートやコンサルタントと事業者の技術、知見を参考にコストの掛からない工夫をしていければと考えています。

Q：どのくらいの人口を目標にこの新しい計画が作られるのか。また、人口減になった場合に、将来的にどのような方法をするのか。そういうところまできちんと試算に入れて、その計画が進められるのか。

A：計画の人口については、令和14年4月の人口を想定しており、人口の想定量は人口統計上の、基本的に現状の実績を以て予測を行い、その集計で7万8千8百人としています。その先は、今度は人口減少等々があったり、皆様にご協力いただいておりますごみの減量化、分別によってごみが減っていくと思われまます。その中で処理規模を150t/日から130t/日としたところでありますので、施設の使い方の工夫をしながら、コストが掛からないようにしていきたいと考えております。

【閉 会】総務課長 午後7時27分頃閉会

ごみ焼却施設建設基本計画にかかる中間答申 住民説明会議事概要（第2回）

日 時：令和8年4月10日（金）午後6時30分～6時50分
場 所：桑折町 桑折町中央公民館 2F キッズスタジオ

【開 会】進行：総務課長 午後6時30分開会

参 加 者 12人
主 催 者 側
組 合 組合管理者 伊達市長
事務局長外9人
受 託 業 者 (株)東和テクノロジー 環境エンジニアリング事業部 2人

【管理者あいさつ】組合管理者 伊達市長 須田 博行

【配布資料確認】

【説 明】業務課長

- (1) ごみ焼却施設建設基本計画にかかる中間答申
ごみ焼却施設建設基本計画にかかる中間答申書により、基本計画検討概要、
検討方法、検討結果の報告を行なった。

【質 疑 応 答】

Q：検討委員会を今回3回行っているが、最終答申の時期はいつを予定している
のか。時期の変動はあるのか。

A：最終答申としましては、検討委員会の第4回目が5月、第5回目が7月、
第6回目が8月に行われる予定になっています。最終答申はこれ以降となるの
で9月若しくは10月を予定しているところです。

Q：釜石市の溶融炉の視察に行ったことがあるが、あれと同じような設備なのか。
また、7. 余熱利用計画、これについて安定的な発電（売電）、あるいは場内
利用（給湯）という説明だが、もうちょっと利用できる方法はないのか。
提案だが、余熱で発生した蒸気を用いて研究、或いは試作として、作物関係の
研究、栽培するような研究設備、そういうものを設置するのはどうか。

A : 釜石市の施設はシャフト式ガス化溶解方式であり、私どもも同じ施設を計画しています。

7. 余熱利用計画については、現在、事業者アンケートを進めており、どのくらい熱を利用できるかということ調査した上で、何が出来るかということを検討委員会の方で検討審議していく予定であります。提案については意見として受けさせていただきます。

Q : 建物の景観について、現在の建物は献上桃の郷の畑の真ん中に建っており、非常に違和感を感じる。今後も同じような建物になって煙突も建つものと思われるのだが、その辺について計画の段階で柔らかな感じのものというか、そういったものを一つ取り入れてほしいのだからか。

A : 計画地の周りは桃畑でございますし、献上桃の郷というところも承知しております。今後の計画、事業者選定等におきましても、環境に配慮した施設、景観に配慮した施設というところもしっかり意識した中で、建設の方も進めていかなければと思っています。

【閉 会】 総務課長 午後6時50分ごろ閉会